

平成25年11月定例会 広域交流対策特別委員会（付託）

平成25年12月13日（金）

[委員会の概要]

藤田委員長

ただいまから，広域交流対策特別委員会を開会いたします。（10時33分）

直ちに，議事に入ります。

本日の議題は，当委員会に係る付議事件の調査についてであります。付議事件につきましては，お手元に御配付の議事次第のとおりであります。まず，理事者において説明又は報告すべき事項があれば，これを受けたいと思います。

【報告事項】

- 阿波とくしまアンテナショップ第2号店の認定について（資料①）
- 徳島ヴォルティスJ 1昇格おもてなし協議会の設立について（資料②）
- すだちくんの全国プロモーションの取組について（資料③）
- 阿南安芸自動車道「海部道路」について

酒池商工労働部長

商工労働部より，2点御報告させていただきます。

まず，第1点目につきましては，阿波とくしまアンテナショップ第2号店の認定についてであります。お手元の資料1を御覧ください。この度，徳島県商工会連合会が東京都中央区銀座におきまして，今年11日から来年2月末日までの間，期間限定にて設置いたしました「ええもんあるでえ徳島」を阿波とくしまアンテナショップ第2号店として認定いたしました。

一昨日のオープン時におきましては，なると金時の焼き芋プレゼントやJ 1昇格ポスターの掲示などによりまして，徳島県産品の魅力と四国初となります徳島ヴォルティスのJ 1昇格をアピールしたところでございます。今後とも，アンテナショップとして現在展開中のローソン虎ノ門巴町店及び飯田橋三丁目店や認定第1号店であります徳島・香川トモニ市場と併せ，県産品の販路はもとより，観光情報提供など首都圏における情報発信を強化してまいります。

次に，第2点目でございます。徳島ヴォルティスJ 1昇格おもてなし協議会の設置についてでございます。お手元の資料2を御覧ください。去る12月8日，東京国立競技場においてJ 1昇格プレーオフ決勝戦が開催されました。徳島ヴォルティスは，京都サンガF.C. に勝利し，来シーズン，四国初のJ 1昇格を達成することとなりました。J 1ともなれば，より一層の注目が集まり，多くのサポーターの皆様が全国から徳島へお越しになら

れます。それに加えて、来年、徳島ヴォルティスは設立10周年という節目を迎えます。このため、来年3月の徳島でのJリーグ開幕に向けまして、徳島ヴォルティスが活躍し、定着できるよう県を挙げてサポートをいたしますとともに、渋滞・輸送対策や観光・宿泊対策といった環境整備に万全の対策を図るため、本日、各界関係者の皆様で構成いたします徳島ヴォルティスJ1昇格おもてなし協議会を立ち上げることといたしております。

県といたしましては、この絶好の機会を捉え、総力を挙げて、受入体制の整備充実を図りますとともに、観光・物産PRをはじめ、全国に徳島を積極的に発信してまいりたいと考えております。

商工労働部からの報告につきましては、以上でございます。御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

吉田農林水産部長

農林水産部からは、この際、1点、御報告を申し上げます。

まず、すだちくんの全国プロモーションの取組でございます。当委員会でも御論議いただきました「ゆるキャラグランプリ2013」につきましては、去る11月24日に投票結果が発表されまして、1,580キャラクターの中で、すだちくんは約30万票を獲得いたしまして第12位となったわけでございます。当委員会の皆様をはじめ、応援を頂きました皆様方に、心から感謝を申し上げます。

本県での取組が数々のメディアで紹介されますとともに、ゆるキャラグランプリ実行委員会によりまして、今回のグランプリの顔として活躍したキャラクター14体をプリントした、この記念Tシャツでございますが、この中に採用いただくなど、すだちくんのメジャーデビューによりまして、本県を大いに全国に発信することができ、一つの成果となったと考えております。

次に、すだちくんのテーマソングについてでございます。資料3を御覧ください。テーマソングにつきましては、歌詞を全国から公募いたしまして、263点の応募の中から、最優秀作品といたしまして、県出身の作詞家でございます保岡直樹さんの「進め！すだちくん」、そして、カップリング曲、いわゆるB面といたしまして、「すだちの思い出」、この二つを選定をいたしまして、同じく県出身の音楽家住友紀人さんに作曲していただいたところでございます。去る10月31日の発表以降、県の各種イベントや県内の量販店での店内BGMなどで活用いただいているところでございます。

さらに、今後の展開といたしましては、すだちくんの魅力を更に高めるため、テーマソングにぴったりのダンスの作成や、軽量化し、女性の方にも使用していただきやすいような動きやすい着ぐるみ、そして活躍の場面にふさわしいコスチュームの製作などに取り組んでいるところであり、この八日には、この日曜日でございますが、早速、ヴォルティスのユニフォーム姿によりまして、J1昇格プレーオフ決勝戦パブリックビューイングで応

援を行ったところであります。今後、J 1に昇格いたしました徳島ヴォルティスとも連携いたしまして、更に積極的なすだちくんの全国プロモーションを展開し、本県のイメージアップにつなげてまいりたい、そしてまた地域の経済の活性化につなげてまいりたい、このように考えております。

報告事項は以上でございます。御審議のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

中内県土整備部長

県土整備部より、1点、御報告をさせていただきます。阿南安芸自動車道「海部道路」についてでございます。配付資料はございませんが、阿南安芸自動車道のうち、唯一残された「海部道路」につきましましては、国土交通省により調査が進められております牟岐町から高知県東洋町までの間におきまして、去る12月11日、学識経験者など第三者から意見を聴くための社会資本整備審議会道路分科会第1回四国地方小委員会が開催され、計画段階評価の手續に着手したところでございます。

今後、県といたしましては、計画段階評価が円滑に実施されますよう、国に積極的に協力いたしますとともに、早期事業化に向け、しっかりと取り組んでまいります。

以上でございます。御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

藤田委員長

以上で報告は終わりました。それでは質疑をどうぞ。

竹内委員

今、酒池部長のほうから、徳島ヴォルティスJ 1昇格おもてなし協議会の設置ということで御報告がありました。このJ 1昇格については、過日に行われた総務常任委員会等々で、相当我が議会のほうからもいろんな活発な議論があったというふうにも聞いておりますし、県民の関心も非常に高い、大変うれしいうれしい出来事であったというふうに思います。まして四国初ということでございますので、チーム創設から9年ですかね。様々な苦難、いろんなものがあったと思うんですが、選手、サポーター、そしてスポンサー、監督、コーチ、全てが一丸となつてつかんだ、正に県民の悲願の達成であったというふうに心からお喜びを申し上げ、県民に新たな誇り、そして将来に向けての希望、子供たちにとっては、サッカーを目指す者にとっては、大きな大きな希望につながったのではないかなあと感じるところでございます。

また、マスコミの報道を見ましても、全国最小の県がJ 1に昇格したというふうなことが全国版にもいっぱいスポーツ紙等々にも載りました。非常に全国から注目を集めておることであり、これを機に徳島を売り込んでいく絶好のチャンスかなあとというふうにも思うわけでありまして。あの試合を見よつたら、最初のうちはこれはもうやられたなあと思うよ

うな感じだったんだけど、何かやっぱりすごいなあ。スポーツの不思議さというか、力というか、途中からもう全く形勢逆転でして、津田選手のゴールから後半戦はもう押し気味に、本当に押していたような感じもいたしますが、本当にうれしいうれしい出来事でありました。観客も全国からいっぱい来る。有名な選手もいっぱい来る。鳴門に来るわけで、その動員、にぎわいの創出につながる大きなチャンスであるというふうに思うわけであります。

そういうことで、こうしたチャンスをしっかりと受け止めるために、新たに協議会、早速今日の午後4時30分からやるということで、非常にスピード感があるわけで評価をいたしますが、まずはその設立趣旨ですね。それについてお伺いをしたいと思います。

新居にぎわいづくり課長

委員から、本当に胸が熱くなるような御質問を頂きました。まず、J1でございますが、御承知の方も多いと思いますけれども、全部で18チームございます。そして、その18チームが2回戦総当たりのリーグ戦を行いますので、ホームで17試合、試合がございます。そしてまた、それに加えて、時々皆様のお耳にあるようなナビスコカップっていうカップ戦もございますので、それが数試合というようなことでございまして、時期としましては3月の月上旬から12月の初旬にかけての期間に、試合が開催されるというものでございます。そして、ほぼ2週間に1回ホームということで試合があるというようなスケジュール感でございます。

そして、たくさんの方が徳島にお越しになるということで、一体どれくらいがということとていろいろと調べております。現状で徳島ヴォルティスは、平均4,573人でございます。これが、後半に上り調子になってまいりまして、11試合を取りますと5,597人。これが現状の平均観客数ということでございまして、最大ではガンバ大阪戦が8,897人で、あとはプレーオフでジェフ千葉とやりました、あれが今季最高で9,301人というのが数でございます。

そして、今回J1に昇格するというので、徳島は確かに人口が小さいものですから、Jの中でも私どもとほぼ近い所のチームと申しますと、山形、甲府、鳥栖といった所になろうかと思えます。そちらの各チームが、J1に初めて上がった時の年の人数の増みたいなのを拾っておりますと、ほぼ倍、あるいは倍以上といった数字が出てきておりました。また、その時にシーズンの最大の入場者数というのを拾ってみますと、山形でありましたら2万102名でありますとか、甲府でありますとスタジアムそのものが1万7,000人のスタジアムでございまして、それで収容率100パーセントで考えたら1万7,000人。そして、鳥栖はちょっとスタジアムが大きいものですから、最大であれば2万2,116人ということでございます。これらのことに鑑みまして、徳島ヴォルティスの2014年の入場者数の想定といたしましては、先ほど申しました山形、甲府、鳥栖の入場者数の平均を取りますと、

約1万2,000人というふうに想定したいと思っております。また、最大入場者数につきましては収容率100パーセントと考えまして、約2万人がスタジアムを訪れるというふうに想定させていただきました。

このように、四国初ということで全国からも本当に注目を集めておりますこの徳島に、これぐらいの方がいらっしゃるといふふうに考えてございます。そしてまた、強豪チームひしめくJ1におきまして、徳島ヴォルティスが活躍し、そして定着していくこと、これが大変重要でございまして、そのために、県を挙げてのサポート体制、環境整備が急がれることと思っております。そして、現在開幕まで約3か月を切っておりますので、まずは試合開催時の渋滞輸送対策、それから観光宿泊対策など、周辺整備に対して万全の対策を練ることが必要でございまして、ですから、このため広く関係者の皆様のお力を借りまして、全国への情報発信、また観客の受入体制の整備の充実を図るために、徳島ヴォルティスJ1昇格おもてなし協議会を設立したいと考えております。以上でございます。

（「設立趣旨」と言う者あり）

設立趣旨といたしましては、まずたくさんのお客様を迎え入れるための準備をするということ、そしてその中でも宿泊対策、それから周辺対策の万全を図るということ。それから、趣旨としまして最も大きなところといたしましては、ヴォルティスが活躍定着していくために、県を挙げてサポートしていく体制、環境整備を整えるということが設立趣旨でございます。よろしくお願いたします。

竹内委員

よく分かりました。対応等についても、今お伺いをしましたけれども、17試合、そしてその他に試合がある、19回の試合があるのかな。その中で大体最大が2万ぐらいというふうに読んでいるようですが、これ総務や経済の委員会でも論議されたと聞いとんですけど、3月にも早々に始まるということで、時間がものすごくないわな。大変だと思うんだけど、そういう時間との戦いという部分もあるんですけど、対策を、地元の意見を十分に踏まえてというふうなお話もありましたが、この短い期間にどのような、いろんなことを考えていらっしゃると思うんですけども、今答えられる範囲の中で、どのようにやっていくかという対応策をお願いしたいと思います。

新居にぎわいづくり課長

本当に時間がなくて、今日も4時半から会議を開催させていただくということでございます。基本的には、周辺の環境整備を進めていくことが一番でございまして、そのための課題がたくさんございます。本日の会議におきまして、この諸課題の抽出を行います。そして、今日は全体会議の後に、すぐに地元部会を開催させていただきまして、その場におきまして、早急にその対応策の検討に入っていきたいと思っております。

そして、来年の3月の日程といたしましては、一日か、若しくは八日のどちらかで開催されるということが予想されております。そして、そういうことですので、本当に3か月切っておりますけれども、協議会におきまして、遅くともその1か月以上前までには環境整備に対する対応策を決定させていただきまして、着実に実施してまいりたいと考えております。

竹内委員

今、いろんな工事を進められておると思うんですけどね。その2万人の収容ということを目指るとしたら、どんなスケジュールを考えとるのかな。今現在は1万か。そのスケジュールを分かる範囲でお答えしてくれたらと思う。

新居にぎわいづくり課長

委員御指摘のとおり、現状では1万人程度の環境整備しかできておりません。それを最大で2万人、あるいは1万2,000人の平均というところまで持ち上げていく必要がございますので、本日の会議におきましても、公共交通機関の担当の部局の方々でありますとか、それからまた特にバス事業者の方々にもお越しいただいております。

そして、県警の課長さんにも出席いただくことになっておりますので、皆様の御意見を頂きながら、スムーズにスタジアムに来ていただいて、そしてまた一番問題になりますのは、スムーズにお帰りいただくというところでございます。警察からの御報告によりますと、現状でもスタジアム近傍の、例えば旧鳴門署前の交差点、それから今ハローズという大きなスーパーが建とうとしておりますが、あそこの交差点ですが、あそこの渋滞解消に約2時間かかっているという報告を頂いております。ですので、これが先ほど申しましたように倍、あるいは倍以上の方がスタジアムにお越しになるとすれば、それをどういった形で解消するのかというのが、本当に喫緊の課題でございますので、スケジュール感といたしましては、先ほど私が申しましたような課題、それ以外のことも御意見いただきまして検討策を練った上で、繰り返しになりますけれども、開幕の1か月以上前を目途に渋滞対策、あるいはその観光関係の宿泊対策等につきましても、対策案を決定していきたいと考えております。

竹内委員

いろんなことを考えてらっしゃると思うんですけど、今も言われたように、やっぱり渋滞対策も大事だし、やっぱり有名な選手がいっぱい来るんでね。徳島の今までは足を運んだことのないような人も見たいなあと行って行かれると。最大2万というのは、多分私は最初の日か八日か分かりませんが、最初の試合というのはどっと来るんじゃないかなあと、多分あふれるだろうなど。これはもう時間的な余裕もないので、2万を収容すると

というのはどうしても難しいと思いますけどね。やっぱりでき得る限りの対応をしていただきたい。道路を直すといってもなかなか今のところ間に合わんで、今警察とのいろんな対応をして多分一方通行だとか、あるいは右折レーンだとか、そういうふうな形で最大の知恵を絞って、その2時間の渋滞をできるだけ少なくするというふうなことだろうと思います。

徳島に行ったらもう時間がかかって試合が終わったわというようなことのないように、2時間かかるとそんなこともあると思うんで、これは大変難しいとは思いますが、最大の知恵と色々な経費も、できるだけこれは使わないほうがいいんでしょうが、使わなければいけない部分には、どうしてもどンドンつぎ込んでいただいて、やっぱり徳島に行ってよかったなあと、サポーターの人たち、観客の人たちに思っていていただいて、また徳島に来ていただく。そういう観光面での大切さというものも十分に考えていただきたいというふうに思います。

もう1点ですが、一部の心ない人は、J1に上がっても、また1年で戻ってくるんちゃうかというふうなことを言う人もおります。しかし、これは絶対に、このJ1の舞台に定着してもらわないかん。そのためには、みんなで支えていかなければいかなあという気がいたします。そして、そのことは県民の心を一つにすることであるし、そしてまた経済の波及効果というものも計り知れないものがあるだろうと思います。そういうことで、経済界などとの一体感というんですかね。サポーター、もう全てが県を挙げて、知事の好きな挙県一致ということで、重要であるというふうに考えております。今年の漢字が輪ということになったようで、支援の輪っていうこの輪をどのように広げていくのかお伺いをしたいと思います。

新居にぎわいづくり課長

委員から御意見ありましたとおり、支援の輪をどう広げていくかというのは、本当に大切なことでございます。そしてまた、やはりJ1に定着していくためには、やはりチーム力を支えるための財政基盤とか、そういったものもしっかりしていく必要があるのではないかと考えてございます。ちなみにそのチームの財政基盤をしっかりさせる方法といたしましては、出資のほかに、例えばスタジアムの中での看板、ピッチ看板というんですけれども、サッカーのフィールドのぐるっと周りに三角型の企業の名前が入っているようなもの、これをピッチ看板と申します。またスタジアムの壁面とかにべたっと貼るんですけど、バナー広告といったものもございます。また、よくテレビで見たら目立ちますけど、ユニフォームにスポンサーが名前を入れるというユニフォームのスポンサー、これらは皆オフィシャルスポンサーというふうに言うようですが、そういったものもございますし、また法人会員という制度もヴォルティスは持っております。いろいろな支援の方法がございますので、こういったことをどういうふうに広げていくのかにつきましても、関係者の方々

と御相談いたしまして、共に検討してまいりたいと考えております。

竹内委員

いろいろ考えていらっしゃるということで、オフィシャルスポンサー、非常に大事なことでというふうに思いますので、いろんな形で、今日行われる協議会、大いに期待をしたいと思います。交通の、最近はやっぱり英語での表記とかね。中国語はどうしてもええんやけど、英語はものすごく大事。ぜひそれは徹底していただきたいと思います。

最後に、これはもう大変、先ほどから話があるように、時間との競争、3月の下旬、早かったら一日というお話を聞きましたんで、短い期間の中で、本当に大変であります、万全の受入体制の整備に向けて、これはもう部長かな、最後に意気込みを聞いて終わりたいと思います。

酒池商工労働部長

ただいま、竹内委員から様々な御提案を頂きました。平成15年に本県におきましてプロサッカーチームの設立の動きが始まって以来、11年目でございます。またチームの創設以来9年目となる今年に、四国初のJ1チームが誕生するということが決定いたしました。私も平成15年当時に設立に関わった者の一人といたしまして、この度のJ1昇格につきましては、非常に感慨深いものがございます。来シーズンにおきましては、徳島ヴォルティスに県内外からより一層の注目が集まりまして、本県にたくさんの観客が訪れるものと期待をいたしております。

一方で、強豪がひしめくJ1チームでございますので、徳島ヴォルティスが活躍をして定着をしていくためには、県を挙げてのサポート体制、それから環境整備が極めて重要であるというふうに考えております。このため、この度、徳島ヴォルティスJ1昇格おもてなし協議会を設立いたしまして、渋滞、輸送対策、それから観光宿泊対策などの環境整備をはじめ、県民のチームとして、みんなで支えるサポート体制の構築に、ただいま竹内委員からも御指摘いただきましたように、本当に時間もございませんので、スピード感を持って取り組んでまいりたいというふうに考えております。

今後は、こうした活動、支援の輪を広げまして、今回のビッグチャンスをにぎわいの創出、それから地域の活性化にしっかりとつなげていけるよう、ただいま委員から頂きました御提言も十分踏まえまして、にぎわいの創出、地域活性化について、しっかり取り組んでいきますよう、関係者の皆様方と力を合わせて全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

竹内委員

ぜひこの徳島県のビッグチャンスを最大限に生かせるよう、そして県民の心が一つにな

る大きなチャンスだと思いますので、ぜひ頑張ってくださいたい。大変御苦勞を掛けますけれども、お願いをいたします。

もう1点、当初この委員会を立ち上げる時の主要なテーマであったんですが、本四架橋の全国の同一料金、それに対応してこの委員会が発足をしたという原因もございます。この、今問題になっております同一料金、これは相当我々議会も一生懸命やり、知事部局も知事をはじめ、部長さんや担当の皆さん方が必死になって、もう何回も何回も足を運んでお願いをしたところでありますが、昨日の閣議の中で、後の割引料金についてどういう形になっておるのか、一番大切な部分でもありますので、お聞きをしたいと思います。

また、部長から報告がありました海部道のほう、誠にこれも皆さん方が頑張ったあかしでありまして、一番大切な命を守る道路で、こういうことは非常にうれしい限りであります。1日も早く、1日でも1秒でも早く、命を守る最先端の道路だというふうに位置付けて、頑張ってくださいたいというふうに思います。この料金について、できれば詳しく、分かっている範囲で、なかなか昨日の閣議決定の後なんで、どの程度のあれか分かりませんが、この委員会の設立の最初の趣旨でもありますので、ぜひお伺いをしたいと思います。

東村道路政策課長

全国共通料金に向けての状況と、また割引の状況ということでございますけれども、全国共通料金の導入については、昨年2月の関係府県市の合意、国との合意ということで26年度から全国共通料金を目指すということになっておりまして、これを受けて国で設置されました国土幹線道路部会において審議が重ねられ、今年6月に中間答申が出されております。この答申では、高速道路料金について全国の高速道路普通区間と大都市近郊区間、さらに海峡部等特別区間の大きく三つに区分する、分かりやすい合理的でシンプルな料金水準が示され、NEXCO、旧道路公団ですけれども、その普通区間に比べまして、約10倍から16倍と、非常に高く設定されております本四高速道路の海峡部につきましても、他の区間と大きな料金差とならない水準とするとされております。現在、国土交通省において、この中間答申を踏まえまして、本四高速道路の全国共通料金の導入に向け、検討を進めているところでございます。

次に、料金割引の状況でございます。現在の高速道路の料金の割引につきましては、高速道路会社が実施する割引と、平成20年度に経済対策として始まりました国の利便増進事業による割引がございまして、この利便増進事業が今年度で終了する予定でありますことから、さきにも申しました答申におきましても割引制度を見直す方向が示されております。国土交通省から8月に発表されました来年度の概算要求におきましても、料金割引に関しましては、必要な措置を要求すると、事項要求はされましたものの、財源は示されておりました。

このような中、昨日、国から平成25年度の補正予算の概要が示されまして、その中に高

速道路料金の割引の項目もございました。内容につきましては、高速道路の料金割引としまして、平成26年6月末までの地方部の休日五割引の継続と、平成27年3月までの大口多頻度割引の拡充、こういったものに620億円という予算が示されておるところでございます。ただ、この補正予算につきましては、NEXCO路線に対する激変緩和策ということで実施されるものと聞いておりまして、本四高速について具体的に充当されるかどうかというのは分からない状況である、そのような状況でございます。

竹内委員

ちょっとよう分からんのやけどな。要するに本四についてはよう分からんというのが今の答弁。本四について、よう聞きたいんや。ほかのはどうでもいい。

東村道路政策課長

今申しましたように、昨日国から平成25年度補正予算の概要が示されたと。その額は620億円ということでございますけれども、今聞いておりますのは、本四につきましては全国共通料金ということで、全般的に料金が下がることが見込まれているという中で、NEXCO会社につきましては利便増進事業がなくなり、全般的に値上がりするというところで、その激変緩和策ということでNEXCO向けの割引というふうな形で聞いておるところでございます。

竹内委員

NEXCO向けの割引。これ具体的に言うたら新聞紙上、特に地元の新聞で見ればゴールデンウィーク、6月までの割引はオーケーというようなことがあるんやけど、これはほれでええんかな、本四も。

東村道路政策課長

今、6月までという休日五割引を延長するという内容につきましては、本四に対してというふうな話は聞いておりません。

藤田委員長

小休します。（11時09分）

藤田委員長

再開します。（11時16分）

竹内委員

昨日の閣議決定の、いわゆる補正予算ですからね。その中には本四架橋が入っていないということなんで、これは我々、知事部局の皆さんも一緒に東京へ何遍も足を運んで、このことについて土日祭日は今よりも高くなる可能性があるというふうなことで、この割引というのは大事だぞ大事だぞって今まで言うてきたんですけど、私もいろんな他県の県会議員や国会議員の話も聞いて、要するに四国は三つも橋架けてええなあ。中身の分からん人がそうやって言よんやけどね。そういう空気が多分片方であるんだろうと。今聞いた中では、本四の一人勝ちっていうふうなことも言われておることも、若干私も漏れ聞いております。だから今、委員長がいろいろ調整をしてくれたんです。まず共通料金というのを勝ち取らないかん。これが一番。特にトラックなんかは、運賃に全部響いてくるもんですからね。競争力から言っても大変なんで、こっちのほうはとにかく大事にしてもらえんかと、この前も自民党の中でもお願いをしてきましたけども。

そういう中で、現状の中では激変緩和の部分にはならないので、本四が入っていないと。本四の会社ももうけとらんので、会社としてなかなか出せないという部分があるのかなあ。今までの答弁ですと、私なりに感じました。しかし、我々にとっては、以前よりも土日祭日が高くなる試算があったんで、それではいかんということで、それに全力を今までは懸けてきましたし、これからも議会としてもやっていきたいと思っておりますので、ぜひ理事者も、特に局長、両方の間に入って大変だと思うんだけど、あなたの手腕がこれから問われると思っておりますので、ぜひお願いしたいと、決意も込めて答弁をお願いしたいと思っております。

小林道路局長

本四の料金のお話につきましては、竹内委員のおっしゃるとおり、県側としましても、しっかりまずは共通料金化を実現するべく、これまでもいろんな形で働き掛け、活動をしてきたつもりでございますので、まだ全容が固まっていないところではございますけれども、まずは共通料金がしっかりできるように対応していきたいと思っております。

それと、その割引のところのまだちょっと見えていないところがありますが、やはり地域にとって利用しやすい料金水準と、なるべくしっかり、引き続き関係府県などとも連携をして、取り組んでまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

竹内委員

ここへ来て、やっぱりそう簡単にはいかないということがよく分かりましたし、先日の国会議員も、ものすごいこの点に力を入れていただいて、特に今、戦略本部長の山内本部長からは、このことについては一生懸命頑張りよるという中間報告まで頂いておりましたので、これからまた巻き返しも図っていきたい。そういうことで、我々議会、そしてこれ

こそヴォルティスの協議会と同じで、やっぱり県民挙げて、この平成の大関所を克服するために頑張っていけないかと思っておりますので、お互い頑張ることを誓って質問を終わりたいと思います。

岡田委員

一部関連で、ヴォルティスの質問をさせていただきます。今、竹内委員のほうからもいろいろ御質問されておりましたが、まず1点確認したいのが、地元で一番心配しているのがスタジアムの改修計画でありまして、それで本当に3月の最初の時には1万5,000人入るようにスタジアム改修できますよね、というところから確認したいと思います。

東村道路政策課長

鳴門のスタジアムにつきましては、来春の開幕までに1万5,000席を確保できるように鋭意進めておるところでございます。

岡田委員

ありがとうございます。今、工事を着々としてくださっているのは分かっているんですが、やはり竹内委員のお話もありましたが、期間が限られていますので、準備する期間がもう3か月切っているという状態で、やはりその周辺の道路状況うんぬんもそうなんですが、まずはその入れるスタジアムがあるんかということが一番の心配でして、それがなくて1万5,000人の動員を考えるって、入れない人を集客する必要はない話なんで、集客できるというのが大前提での話になってきますので、まずはその確認をさせていただいたかったんで。では1万5,000人、3月までにできるということで、よろしくお願ひしたいと思います。

それで、今渋滞の話というのが出まして、総務委員会のほうでも渋滞の交通安全の確保、そして地元は自転車で行く子供たちもいますし、また大量輸送になりますと、JRの汽車であったり、また公共交通機関のバスであったり、そしてまた高速バスからの誘導であったりという、県外からの受入体制で拠点になる場所が何箇所かあります。その拠点になる場所からいかにスタジアムまで、どういうふうに道を描いて皆さんを連れて行くかという、誘導するための道路標示というのが一番大事ではないかと思っております。

まず、徳島県としては車で移動するのが普通ですが、県外から来られた方は車で来る。ちょうどこの委員会が対象になっておりますが、26年からは高速料金も下がるということで、県外からも車で来る方がいらっしゃると思うんですが、またフェリーで来ていただいたり、いろいろな交通ルート、想定できる交通ルートを全て網羅してもらって、その拠点となる場所からいかにお客さんたちサポーターの皆さんを安全にスタジアムまで運ぶかっていうルートを全て網羅できるように、この委員会は広域になりますので、全部の皆さん

んのネットワークがありますので、それを使ってできるように対策をとっていただきたいと思うんですが、入ってくるルートで、どこが基地になるというのは想定されていますか。

新居にぎわいづくり課長

今、岡田委員から御指摘がありましたように、特に来シーズンは初めて鳴門にお越しになるという方がたくさん想定されますので、スタジアムへの動員が分かりやすくなるように標示をしていくということはとても大切なことで、これもまたおもてなしの一つであると考えておりますので、しっかりやっていきたいと思っております。

この4時半からあります協議会の中には、鳴門市、それから鳴門商工会議所、鳴門市うずしお観光協会のメンバーの方にも入っていただいております。今委員がお話されましたような拠点の箇所につきましても、例えば競艇場が来年度から2年間は使わないのでといったような情報も入ってきておりますので、そういう情報を頂きながら、それからまたなおかつ、やはり地元でないと分かん、ここにもサインが要るとか、いろいろ多分地元情報がすごく大切になってくると思いますので、そういった情報を頂き、御意見を頂きまして検討させていただきたいと思っております。

岡田委員

今日これから午後、この委員会終了後というか議会終了後に開催されるということで、ぜひ地元の情報を集めていただきたいと思っておりますとともに、先ほど出てました私はその拠点になる所の渋滞の信号の所に住んでいますので、2時間渋滞と言っていましたけど、それは2時間というか、逆ですね。4から5時間だらだら渋滞といいますか、ずっと渋滞しているのが、この間、ジェフユナイテッド千葉の時は、大体10時ぐらいから混み始めまして、ただしそれが自然渋滞のようにずっとだらだらだらっと混んでいて、実際一番ピークだったのと言ったら、大体1時ぐらいからなんですけど、結局1時にスタジアムの近くで駐車場に入れようとする、もう駐車場にはキャパシティがありませんので、そのお客さんをじゃあどう移動させるのかとか、すごく違う視点での問題点が必要になってくるとともに、一つ提案したいのは甲子園方式で、今年の夏、何回か甲子園に行かせてもらいましたが、先ほども出てましたように、鳴門の競艇場の駐車場、非常に広い所が空いておりますので、そこからピストンの輸送をする。また、甲子園だったら大体歩いて30分ぐらいの距離に、応援団バス用の専用駐車場を付けて、車の乗入れはできる限りお控えくださいという標示もありますので、どこまでの方をどこまでの場所に入れ込むかというところの線引きをぜひすべきだと思います。

それで、土日の試合だったらいつもヴォルティスの試合、大塚製薬の駐車場を貸していただいておりますけど、土日以外の平日になりますと、やはり会社の皆さんは車に乗って来ていますので、奥まで入り込んでしまうと駐車場が非常に少ないという問題点もござい

ますので、平日開催なのか土日開催なのかによって、駐車場の割当ての台数も限られてきますので、そのあたりの部分もぜひ検討してもらって、緻密にもものすごく緻密に、大ざっぱじゃなくて、やはり何台ここに入れるというような緻密な数を出してもらって、これ以上は入れないんだったら違う場所での駐車場の確保、そしてそこからのピストン輸送、またはJRの利用を促す、またJRの増便、徳島バスの増便っていう、いろんな公共交通機関を使ってネットワークを、これから会議があるようなので、ぜひ詰めて、していただきたいと思います。

それと、もう一つお願いしたいのは、現状ヴォルティスの試合があるときには、JRの鳴門駅からスタジアムまで、私たちは非常に遠いと思って車で行く距離なんですけど、サポーターの皆さんは歩かれて行ってます。それで、ヴォルティスロードっていうのを、ヴォルティスのマークを電柱とかに付けて、分かりやすく私たちはしているつもりなんですけど、まだ分かりにくいそうなので、それをブルーのラインで引いてもらうとか、のぼりをずっと立てるとか、ヴォルティスロードで、できるだけ誘客できるようなシステム、その道が信号があって歩道があって歩道橋があって安全ですよというラインを、ぜひ県警の皆さんと協力してもらって、どこでも通ってもいいんですけど、そこが一番交通に支障がないですよという道を先に提示してもらって、できるだけそこを歩いて行ってくださいというような誘導をしていただきたいと思います。

それと、先ほど申しましたけど、私たちが想定している以上に、1万人のお客さんが来るとなるといろんな公共交通手段でおいでると思いますので、フェリーの乗り場から鳴門の運動公園、スタジアムまでの行き方であったり、それぞれの県内各所での掲示板が必要になってくると思いますし、また交通料金が安くなるということで、瀬戸大橋からであったり、四国のそれぞれの地域からおいでる方のことを考えれば、高速のインターのここで降りてくださいという標示も多分必要になろうと思いますので、ぜひおもてなしの心を最大限に発揮していただきまして、すだちくんが迎えてくれてもいいんですけども、ぜひヴォルタくんと一緒に徳島県の機運を盛り上げるような対策をとってほしいと思うんですけど、いかがでしょうか。

新居にぎわいづくり課長

地元ならではの細かい御指導ありがとうございます。

全くそのとおりでして、我々も協議会の中で先ほどお話がありましたような、観客の公共交通機関利用促進策でありますとか、JRや路線バスと協同しまして、増便、増結の検討とか、新たな駐車場の確保とかといったような話を詰めていきたいと思っております。本日頂きました意見も踏まえまして、協議会で検討させていただきますので、どうかよろしく願いいたします。

岡田委員

それともう1点、実は熱狂的なチームには、私たちが思っていないような熱狂的なファンの方がいらっしゃるということで、ぜひ皆さんに対策していただきたいのは、やっぱりアウェーで来るチームの受入体制、これもぜひ検討していただきたい。もう一つは渋谷の交通整理をしていたようにDJポリスさん。やはりサポーターの気を逆なですることなくスムーズに誘導できる若いポリスさん。別に年齢は若くなくてもいいんですが、ぜひ交通誘導ができる、またその場を安全に誘導していただけるような警察のほうの取組もしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

松岡県警本部刑事部長

今のお話でございますけれども、警察といたしましても、やはり多くの観客サポーターの方がお見えになるということでございますので、既に部内におきましては、最も重要な交通対策、雑踏警備対策、それと事案発生時の早期対応対策というものについて対策会議を開催いたしまして、既に検討を重ねておるところでございます。

また今日の午後からございます協議会におきまして、いろいろと検討させていただいて、関係機関と連携をしながらやっていきたいと考えているところでございます。先ほどございましたように、最も重要な交通緩和対策、あるいは交通安全対策というのが最も重要だろうと考えているところでございまして、先ほど竹内委員からも提言がございましたように、交通の通行方法であるとか、あるいは駐車場の対策、またその駐車場からのシャトルバス的な考え方の運用についてであるとか、あるいは高速道路からの流入、あるいは流出、これの対策というようなものを各個別に検討を重ねてまいりたいと考えているところでございます。

岡田委員

ぜひ気持ち良く来て、気持ち良く帰っていただけるように、よろしくお願ひしたいと思ひます。それとヴォルティス関係では、とりあえず時間が限られてきていますので、いかに素早く、いかに的確に、そしてエリアが鳴門のみならず徳島県下中から来ていただけるようにということ。

それともう1点、この協議会のメンバーの中にもありましたが、やっぱり子供たちに夢を与えるスポーツのチームが見えるということで、今までにも多分各市町村の日というのがあって、今まではヴォルティスの試合を見に来てもらうために、各市町村協力していただきっていたんですけど、その粹っていうのは、やはり地元の皆さん、今まで支えてくれた皆さんに対しての支援というのがあってこそ、このJ1につながったと思ひますので、今まで支援をしてくださった方を大事にして、また粹を広げていっていただきたいと思ひし、ぜひ子供たちには本物を見るチャンスですので、無料とは言いませんが、できるだけ低価

格で、たくさんの試合が見てもらえるような取組というのをぜひして、徳島から次はJ1、またはワールドカップの試合に出られるようなサッカー選手を育てていってほしいなと思います。

それで、特に来年はワールドカップがある年に当たってJ1に上がっていますので、非常にサッカーの熱が盛り上がり我想いますので、それも踏まえて応援に来るお客さんたちも今のところ想定1万2,000人が平均ではないかというようなお話ですが、チームによってはあふれ返ることも想定できますし、いろんなことを最大限考えられる範囲で考えてもらって、実際動き出しますと色々な想定外のことも起ころうかと思いますので、その想定外にいかに迅速に対応できるかということも、また余裕を持って迅速に対応していただきたいと思しますので、これを要望したいと思しますが、J1に関しての一番メインになるのは、どこの部ですか。商工ですか。では、部長の決意表明をどうぞ。

酒池商工労働部長

先ほど、竹内委員からも様々な御提言を頂きまして、今も岡田委員から、より具体的な本当に地元の声を頂きました。我々もこれから、今日頂きました意見をしっかり踏まえまして、今日の夕刻開かれます協議会の場に、今日頂いた意見も十分皆さん方にお話をさせていただいて、より良いJ1ですね、ヴォルティスが上がったことを県内の活性化につながっていくように十分対応してまいりたいと考えております。よろしくお願ひします。

達田委員

まず頂いた資料に基づいてお尋ねしたいんですが、阿波とくしまアンテナショップ2号店の認定ということで、資料を頂いております。銀座一丁目というところ、もうかなり東京の真ん中かなと思うんですけども、ここで2か月半ぐらいですかね。ここでアンテナショップを開いていただけるということで、県産品はどういう物を中心に置かれるんでしょうか。

仁木観光政策課長

商工会連合会が設置をいたしますアンテナショップについての御質問でございます。

取扱いの商品でございますけれども、全ての商品数の品目が約200品目でございます。一例を申し上げますと、例えば梅酒でありますとか、ゆず、また阿波ういろうでありますとかまんじゅう、フィッシュカツ、スイートポテト、なると金時のお菓子、そば米雑炊やすだちサイダーなど徳島の味覚、また工芸品、阿波藍染等も含めまして、特色のある品ぞろえとなっております。

達田委員

あらゆる場でいろんな所で徳島県産品をPRしていただけるというのは本当に有り難いことだと思うんです。私も先日、有楽町のほうに見せていただきに行きましたら、立派なしいたけの「しいたけ侍」とかありまして、ファンがいるんですということで、いつも買いに来てくれておりますとか、なると金時とかすだちとか並んでおりました。本当に誇らしい思いがするんですけれども、銀座に構えとなりますと、お家賃も高いのかなあと思うんですけど、そんなことはないんですか。

仁木観光政策課長

このアンテナショップの店舗そのものの事業につきましては、商工会連合会さんが主催で設置をされるという形になってございます。県といたしましては、認定型アンテナショップ、これ阿波とくしまアンテナショップというふうに申しておりますけれども、これが先ほどおっしゃいました、有楽町にございますトモニ市場に続いての第2号店ということで認定をしているところでございます。おそらく家賃等もある程度の額はすると思っておりますけれども、そのあたりは主催者でございませぬので、そういうことでございます。

達田委員

県は出さなくてもいいということで、やっぱり繁盛していただきたいなという思いがございませぬ。県外の方に徳島県産品をどんどん知っていただく。また観光地も知っていただくということは本当に大事だと思うんです。

実は、先日外国の方で日本に来ている方とお話する機会がありましたら、徳島県と言ったらどこが観光地ですかって聞かれたんで、ほら一番に鳴門ですって言いましたら、「え、あのナルト」とか言うてね、全然違うことを言ってるんですよ。うずまきナルトのナルトでしょって言うんです。それで、観光地とかね、徳島県にそういう場所が本当にあるんですかって聞かれました、あれはアニメの世界でだけ知ってたんだなあっていう、そういう思いをしました。それで、やっぱり地名を変えずに、鳴門という名前をきちんと出したほうが、やっぱり外国の方もよく分かるんだなあと、本当にある地名なんだっていうね、知っていただいて、こっちもまあびっくりしましたし、相手もびっくりしたんですけど、ほんまにある所だっていうことが分かって。だからそういう徳島を売り出す上で、実名の地名を出していただくということ、それから、県産品がどんなにかすばらしいっていうことを、やっぱり利用していただいた方にもどんどんと意見を出してもらえようようなアンケートなんかも設置して、どういうふうにおいしかったとか寄せていただけたらと思っておりますので、ぜひそれをお願いしたいと思っております。

それと、県外の方に知っていただくというのはもちろんですけども、県内で徳島県人が徳島県産品を食べ、徳島県産品はおいしいんだということに自信を持つということが本当に大事だと思うんです。子供の時から本物の味を知っているということが大事だと思

うんですけれども、徳島県内で今、いろんな所で産直市ってやっていますが、大繁盛していますよね。私も大好きでよく行くんですけれども、JAさんとかがやっている産直市だけでなく、最近は大手のスーパーでもやっていただけるようになりました。そういう所でも、どんどんと産直市をやっていただいて、県外の方は香川へ飛行機でうどん食べに行こうかという人もいるらしいですけどね。有名だとそういうふうな方もいると思うんですが、徳島県って言ったときに、じゃあ何を食べに行こうかと思いつかべたときに、ちょっとなかなか浮かばないというのがありますが、やっぱり新鮮ないろんな野菜や果物がどの店に行っても新鮮なものを売ってるっていうね、そういう状況をぜひ作っていただきなあとと思うんです。それでキョーエイなんか取り組んでいただいている、それからこれからはイオンなんか進出してくると言われておりますけれども、そういう所にもぜひ産直の売り場を確保していただけるようお願いできんのかなあとと思うんですけれども、そういう取組はされているでしょうか。

丸谷もうかるブランド推進課長

量販店等における生産者が生産現場から直接持ち込む、いわゆる産直市の取組の拡大についてということでございます。

これにつきましては、地産地消協力店と申しまして、県内の量販店、あるいは飲食店の方に県産品を扱っていただくというようなことで、地産地消協力店の取組を行っております。その中で、先ほどおっしゃいました地元の大手スーパーでは、そういう産直市の取組をされております。これにつきましては、かなりの生産者が取り組んでおまして、今では数百人規模になっております。そういった取組は生産者が直接店で売れると、産直市という形ではなくて、量販店で直接売れるというようなことで取組が拡大されております。

県としても、そういった量販店での産直市といいますか、量販店における地産地消というものも進めていきたいというふうに考えております。もちろん、それにはその量販店の理解、御協力が必要でございます。そういったことで、量販店にそういう地産地消協力店になっていただけませんかというようなことで、これからも推進していきたいと考えております。

達田委員

ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。県外から来た方がそういうお店とか産直市へ行って、たくさん買い込んで、先に送るんじゃない言うて、荷物を送っているところをよく見ますけれども、やっぱり徳島の野菜や果物が本当に新鮮でおいしいっていうことを、皆さん知ってきてくれるんだと思います。これからも更にと取組をよろしく願いいたします。

それともう一つは、私もすだちくんが大好きで、先ほどTシャツを見せていただきましたし

たよね。ああいうのはどこで買えるんでしょうか。インターネットで買おうと思ったら、送料が630円もかかるので、ちょっと戸惑ってしまいました。ですから、県民の方もあんなん欲しいっていう方もいらっしゃるんですけども、どこに売ってるんでしょうか。

丸谷もうかるブランド推進課長

先ほど御紹介しました、ゆるキャラグランプリのオフィシャルTシャツでございますけれども、このオフィシャルTシャツは、このゆるキャラグランプリの実行委員会が作成した物で、その実行委員会のホームページで、今インターネットで、先ほどおっしゃいましたようにネット販売されているということでございます。それ以外に買うということになりますと、大きな都市にはそういうゆるキャラを集めたキャラクターショップがございます。そうした大都市のキャラクターショップには置いてあるというような情報もあります。グランプリ実行委員会が販売しておるといふようなことで、そういう方法がとられているというところがございます。

達田委員

やっぱり送料を払わなければ買えないということですかね。大阪まで行くのも大変ですのですね。分かりました。

そしたら次なんですけれども、徳島県が本当にいろんな面で発展してもらいたいという気持ちを皆さんお持ちだと思うんですよ。特に、スポーツイベントなんかにつきまして、どんどんと市民の皆さんが頑張っておられるということで、私の周りにもとくしまマラソンをきっかけに走り出したという方も何人もいらっしゃいますし、退職してからマラソンを始めて、出てみたら走れたよっていう方もいてね、本当に素晴らしいなあという思いがいたします。ただ、24年度の包括外部監査の中でも指摘をされているんですけれども、こういったスポーツイベントについて、外部監査の中では、計画の対象年度ごとに、どのような戦略を持って、何名の観光入込客、県外入込客数、宿泊者数等を目標とするのかについては不明だというふうに書かれているんですね。この点については改善をされているんでしょうか。

新居にぎわいづくり課長

ただいま達田委員から、その計画等についてということでお話を頂いております。

とくしまマラソン、私どものほうで所管させていただいておりますけれども、マラソンに関しましては、徳島県観光振興基本計画で戦略目標を定めておりまして、その中で観光入込客数、県外入込客数、宿泊数などの六つの数値目標を定めてございます。その項目の中での個別ということで、とくしまマラソンが位置付けられているというふうに考えてございまして、ちなみに24年度のことで恐縮でございますけれども、24年度の具体的数値目

標としましては、1万人ということで設定をさせていただいているところでございます。

達田委員

これにつきましては、先日勉強会で見せていただきました評価についてもA評価ということで、どんどん伸びているということで、県内外からたくさんの方が参加してくださるイベントになってきたということで、素晴らしい取組だと思います。それで、もっともっとやっぱりね、充実し、発展させるためにも、ここで指摘をされております項目がきちんと実行できてこそだと思わすけれども、一つはイベントの安全性、円滑な運営について指摘がされております。それから二つ目に、これは第3回における申込み手続きにつきまして、手続において問題があったというようなことが指摘されております。また第5回大会におきましては、風雨が非常にすごかったという中でやった中で、安全性への配慮ということで指摘がされております。これらにつきまして、やっぱり基準を設けてするかしないかっていうことは、ちゃんと医師にも相談し、そして天候についても基準を設けて、きちんとした判断をするべきでないかというような指摘がされているわけなんですね。この点いかがなんでしょうか。

新居にぎわいづくり課長

平成24年度の包括外部監査で御指摘いただいた点についての御質問でございます。

安全性等につきまして、基準がないというふうに御指摘を頂いているところでございますが、実はマニュアル等には基準がございまして、その基準どおり運営をしていたわけでございますけれども、特に第5回大会、記憶に新しいところでございますが、悪天候の中で開催させていただいたこともありまして、その時にはいろいろな御意見を参加された皆様、あるいはスタッフの皆様方から頂いたところでございます。その御意見を踏まえまして、実行委員会で検討した結果、とくしまマラソンの運営マニュアルの従来気象条件等の中止判断に伴う場合の決定方法というものに加えまして、新たにとくしまマラソン実施本部に医療スタッフ協議会を設置いたしまして、医学関係者からの医学的見地を頂きながら、開催の有無についての判断をしていただくというように改正させていただいております。2013大会から運用しております。幸いにも、2013大会はお天気が良かったものですから、この基準は発動することなく済みましたので、指摘を受けまして、改善させていただいたところでございます。

また、ちょっと第3回大会に御指摘があった部分で、当選発表までに約2か月お時間を頂いてしまい、御不便を掛けたというところでございます。当時は郵便振替とインターネット共に先着順ということでさせていただいておりましたところ、本当に人気うなぎ登りで、大変な状況になり、郵便振替につきましてもあつという間に定員に達してしまったというようなことがございまして、出場者の決定に思った以上に時間がかかったというこ

とでございました。この点につきましても、現在申込み方法を改善いたしました結果、現在では約1か月と少しと、大体5週間ぐらいなんですけど、そういった時間で郵便振替の皆様につきましても、決定通知が出せるようになっておりますので、これも改善しております。

今後もマラソンにつきましては、いろんな方の御意見を頂いておりますので、関係者の皆様方と一緒に実行委員会で検討して、進化するマラソン大会ということで進めていきたいと思っております。

達田委員

改善をされているということで、お天気が急に変わったりすることもありますので、それはもうなかなか予期できないことがあるかも知れません。ランナーの方は、私も知っている方も出たんですけれども、お天気は悪かったけど、すごく充実した、良かったって皆さんそうおっしゃいます。本当に良かったんですよね。ランナーの方は充実されておりました。ただ、ここで監査の方が心配されておりますのは、ランナーの方はともかくとして、未成年のボランティアスタッフにつきまして、雨の中で長時間ずっとボランティアをされているということで、お家の方も心配されたんじゃないだろうかというようなことで書かれているわけなんですけれども、そのボランティアスタッフについて、そういう生徒さんなんか来る場合に、何か基準を設けているんでしょうか。

新居にぎわいづくり課長

委員から、未成年のボランティアの安全確保についていかがかというような御質問を頂いております。

未成年に限らず、ボランティアスタッフの皆様に対しても、大会の中止基準につきましては、先ほど御説明いたしましたとおりのマニュアルの運用に加えまして、24年度からは、繰り返しになりますけれども、医療スタッフ協議会を設置させていただきまして、医学的見地からの御意見も頂くようにしております。近頃のことでございますので、天気予報が相当高い確率で当日の予想がつくようになりましたので、こういった情報も加えまして、医学的見地からの意見も早め早めに判断できるようになってまいりましたので、こういった部分で情報を確実に捉えるとともに、高校と連携を密にいたしまして、早め早めの判断をできるような体制を整えておりますので、そういった形で進めていきたいと思っております。

達田委員

それでは、万全な体制でどんどんこの大会が発展されるように、私も協力できることがありましたら協力していきたいと思っております。

それと最後に、以前お伺いしました剣山とかが50周年ということで「ぐるっと剣山！」と言われていながら、道路が残念ながら見ノ越トンネルのちょっとすぐ下の438号が通れないということで、ぐるっとからは来れないということで、この道路の見通しですね。安全に通れるようになるっていうのはいつなのか、見通し分かっていたら、ぜひお願いいたします。

東村道路政策課長

国道438号の見ノ越トンネル手前、こちらから見たら手前なんですけども、その災害の復旧状況と、またその通行規制の状況でございますけれども、今、当該災害復旧の工事につきましては、徳島森林管理署と、県の西部総合県民局で事業を分けてやっているところでございまして、この通行の見込みにつきましては、来年4月末には剣山の山開きがあるとお聞きしていますので、それに向けまして、まずは時間制限を伴うような形になりますけれども、それに間に合うようにということで、工事を進めていきたい。最終的な工事の完了にはまだ長くかかると思いますが、まずはそれに合わせた形で進めていきたいと考えております。

達田委員

春の新緑の頃には、時間制限だけでも通れるようになりますよということですね。本格的に通れるようになるのは、いつっていうのが、まだ今の段階では分からないと、そういう状況でしょうかね。

東村道路政策課長

この災害につきましては、非常に規模が大きな崩壊ということでございまして、先ほど申しましたように、徳島森林管理署が管理する民有林直轄治山事業というのと合わせまして、県のほうの道路部局での工事ということでやっております。双方が共にかなりの規模の工事を伴うということで、完全な復旧までには相当の日数がかかるものと想定しております。

達田委員

これ、50周年というちょうど節目の年になってしまいましたので、特に指摘をさせていただいたんですけれども、剣山の見ノ越から上の山頂付近が好きということで行かれる方も多いんですけれども、山川からの道が好きとか、穴吹から行く道が好き、私のように神山から行くのが好きという者もおりますし、剣山の山頂付近だけでなしに、その道中もやっぱり徳島全体が好きという、そういう方が行っていると思いますので、ぜひとも早めていただけるようお願いをして終わります。

岸本委員

それでは質問させていただきたいというふうに思いますけれども、まずは質問に対して、2点ほどヴォルティスとの関係で要望をしたいというふうに思います。徳島にとっては明るいニュースです。それでおもてなし協議会が設置され、今日協議をされるということなんですけれども、どうしてもこういう協議になりますと、あれもないこれもないと。最低限しなきゃいけないことから先に協議が行われていくと思うんですね。そうしますと、どうしてもハード対策であったり、そういったことにまずいってしまうと。それはそれで大事なことですけれども、せっかくの大きなチャンスですので、ぜひとも経済効果を最大限に上げていく対策、これについてももう本当にあと3か月ということですので、同じく時間がないことから、この対策に対して一所懸命取り組んでいただきたいということを一つ要望します。

それともう一つは、メンバーを見てみますとやっぱり重厚長大と言ったらおかしいですけど、重厚な気がしますので、若い方の意見をぜひとも吸い上げてほしいと。そんな中に新しい徳島の未来があるかも分かりませんので、若い方の意見を吸い上げていただきたいということをまず要望します。

それでは質問ですけれども、宿泊数の関係の質問をしたいと思います。先般50万人を増やして、230万人の宿泊数に27年度までにしたいという県の決意がありました。そんな中で私、実は11月23日、個人的なことなんですけれども、結婚式がありまして、結婚式に行っただけなんですけど、その帰りタクシーに乗ってましたら、日本全国の教育関係の方のコンベンションがあったということで、今日は人が多いんですよという話を聞きました。そんな中に、わざわざ淡路から朝バスで出かけて来ると、他県で泊まってね。そういう話を聞きました。そんなに多いんだなあというふうに思ったんですけれども、その部分から2点ほど質問したいと思います。

まず一つは、50万人を増やしていこうとしてますけれども、この宿泊のキャパというんですか、それが徳島県に備わっているのかなあということで、今現在の徳島県の宿泊できる施設であったり、キャパシティですね。それについてお伺いをいたします。

仁木観光政策課長

県内の宿泊施設のキャパシティでございますけれども、県全体で申しますと約2万人でございます。これは東部、西部、南部に分けますと、東部では約1万2,000人、西部が約3,000人、南部につきましては約5,000人。合計で約2万人ということになってございます。また施設の数でございますけれども、徳島県で、これは平成24年の観光庁の宿泊旅行統計でのデータでございますが、434施設、県全体でございます。

岸本委員

大型施設なんかはどうですか。それと余分なことかも分かりませんが、宿泊数46位にある奈良と比べて、どういう状態になっているのか教えてもらえますか。

仁木観光政策課長

本県の施設の状況でございますが、全施設の合計が申しあげました434施設。このうちいわゆる比較的規模の大きい従業員10人以上の施設をとりますと、84でございます。同じくこれを奈良県と比較をいたしますと、奈良県は施設数が480、規模の大きい施設10人以上施設が102でございます。

岸本委員

230万人と言いますと、奈良と同程度の宿泊数になりますので、施設を増やすというのはなかなか難しいでしょうから、回転数を上げるということになるかと思えますけれども、回転数を上げるために一所懸命取り組んでほしいというふうに思います。

それからもう1点ですけれども、そのコンベンションを誘致しようということで、ビジネス目的客の誘致ということで、県は2本柱で進んできていると。それで、先般の大きなコンベンション、研究会にもつながったんだなあというふうに思っていますが、こういう情報をこの宿泊関連業界であったり、その観光関連業界であったり、そういったところに情報提供というんですか。その連動体制はどんなふうになってなっていますか。

仁木観光政策課長

コンベンションにつきましては、1度に多くの宿泊を伴う、そして飲食や運輸など経済効果は非常に大きいということで、県を挙げてコンベンション誘致を強力に推進していこうということで、本年の7月に徳島コンベンション誘致推進協議会を立ち上げさせていただいたところでございます。この中には、市町村や経済団体、また旅館、飲食、旅行業、運輸業など約300団体の皆様が御参加いただいております。こうした皆様方から、それぞれのお立場での情報網の中から、コンベンションの情報でありますとか、そういったものにつきましても寄せていただくようお願いをしたところでございますし、また県の各部局間関連ということで、そういった情報についても収集しております。現に情報についてはいろいろな団体様からお寄せいただいて、お寄せいただいた団体様の関係につきましては、主催者様のほうへ売り込みに行かせていただいているところでございます。

岸本委員

コンベンションが決定して、それを関連業界のほうにどういうふうに、こういったものが取れていますということを流していつているのかと。その辺はどうですか。

仁木観光政策課長

もちろん大型のコンベンションになりますと、受入体制というのが非常に重要になってまいります。したがって、それぞれ旅館でありますとか飲食、旅行いろんな関係がございますけれども、こういった関係団体の皆様方に対しましては、それぞれ必要に応じまして、そのコンベンションの開催の予定でございますとか、また協力の要請といったことにつきまして、私ども県と県観光協会が連携をいたしまして取組を進めているところでございます。

岸本委員

まずコンベンションということで、初めて徳島に来られるという方もいらっしゃる。徳島に来て良かったなあと、今度はプライベートでも来ようかというような、そのリピーター作りというんですか。これに対してはどうですか。

仁木観光政策課長

委員がおっしゃいますように、単に1回来ていただくだけではなくて、徳島のファンになっていただきまして、できれば二度三度と観光に徳島を訪れていただきたい。こういったことは非常に重要でございます。そこで、このコンベンションの参加そのものだけではなくて、例えば徳島でおいしい料理のメニュー、これをコンベンションに参加された皆様用に御紹介をするでありますとか、また観光のコース、観光ガイド、こういったものを盛り込んだコンベンション支援ガイドブックを現在作成中でございまして、年内には完成するという予定でございます。こういったものの活用をはじめといたしまして、ほかにもおどる宝島！のキャンペーン、おどる宝島！とくしま、この魅力を大いに発信していこうということで、観光のキャンペーンを現在構築中でございます。

この中にはいろいろな周年事業でございますとか、またもちろんヴォルティスの情報、J1の情報、こういったものもしっかりと盛り込みまして、ガイドブックまた観光のサイトといったものも作る予定でございます。こういったものを大会の参加の皆様にお配りをするでありますとか、また今年10月にプレキャンペーンということで、おどる宝島！パスポートを作成をいたしました。このパスポートにつきましては、スタンプラリー機能がまずございます。3個、6個、9個と、多く集めれば集めるほどいい賞品に応募していただけるということがございます。また宿泊をしていただくと、一気にスタンプを3個押させていただけますとか、さらにはこのプレゼントの中には無料の宿泊券などもございます。こういったことで、このコンベンションにお越しになった方に、このパスポートも使っていただきまして、そしてまた徳島に来よう、そしてこのパスポートを使って楽しもうといったことについても普及をしていきたい。

さらにもう1点、メールマガジン徳島ファンクラブといったものを発行してございます。これにつきましても、徳島の旬の情報、観光や物産の情報、もちろん徳島ヴォルティスの情報なども入れていきたいと思っておりますけれども、こういったものにつきましても、お呼び掛けをいたしまして、これも活用しまして魅力の発信を行っていききたいと考えております。

岸本委員

ぜひとも50万人増の230万人を実現してほしいというふうに思います。

最後になりますが、今年度、宿泊はどんなふうに推移しているのか、速報といえますか、そういったものがあれば教えていただきたいというふうに思います。

仁木観光政策課長

観光庁の宿泊旅行統計の状況でございますけれども、この度観光庁から県のほうに速報値、いわゆる暫定値でございますけれども、25年、今年の7月から9月、3か月間の暫定値が示されました。これによりますと、徳島県の状況は前年同期比、対前年同期比で17.8パーセントの増でございます。また、これも含めました25年の1月から9月、この9か月間の合計で見ますと、これも暫定値でございますけれども、徳島県延べ宿泊者数が約151万2,000人。対前年同期比で約16万1,000人増。率にして11.9パーセントの増となっております。この11.9パーセントプラスという数字につきましては、全国平均が3.6パーセントでございますので、これを大きく上回る伸びを示してございまして、四国4県の中では、唯一の増加、つまりあとの3県は対前年比減となっております。今後、徳島ヴォルティスのホームゲームにおいていただきます県外サポーターの皆様方、これを観光の誘客、周遊、宿泊の促進、これも非常に大事でございますので、こうしたことも十分に活用をさせていただきましたり、またおどる宝島！とくしまのキャンペーン、それからコンベンションの誘致、こういったものを効果の高いところに重点的に打つということで、27年までに約50万人増の目標達成を目指して取組を進めてまいります。

藤田委員長

私のほうから二、三要望させていただきます。質問もいろいろあったんですが、まず時期が来ています。今、竹内委員から話がありました高速道路の件ですね。共通料金制度はやっぱり一番本命かなあ。こういう中で、ある骨子が見え隠れしている段階にきておるんだろうと思うんですが、竹内委員のお話のとおり、これが県民にとってできるだけプラスになるような、そういう制度になるように、お互いアンテナを高くして情報収集に全力を挙げていただきたい。これはもう2月の議会で言ったって間に合わんもんですから、それまでに議会と知事部局と合わせて最大の力で、情報収集に向かった中での方策、最善の策

を模索していくためにも、ぜひ早いうちの情報収集をお願いをしておきたいと思います。

それから、ヴォルティスの関係ですが、これも3月ということなのですが、物産とかいろんな形でお伺いをしようと思ったんですが、新潟県には勝ちの種や言うてね、亀田製菓の。そういうグッズを売ってるんですね。柿の種です、赤い。それを勝ちの種や言うて書いてね、ちょうどもう10何年前ですかね、Jリーグがやるっていう時に、新潟行った時にそういう商品を頂きました。私どもやはり物産と地域の商品の開発と兼ねて、そういうものを開発しながら観光客に提供できるようなものを開発する。そういうこともぜひやっていただきたいなあと。

あわせてこういうヴォルティスのおもてなし協議会ができるんですが、今日ここにおいでるのも県庁を横断した組織なんですね。県庁の職員というのは、非常にそういう各部署のノウハウをたくさん持っておられる。これが千載一遇のチャンスで、徳島県にどれだけプラスになるか。観光、先ほどの話のとおり、観客動員数からして非常に大きく見込まれております。このチャンスを逃がすわけない。県として、県庁として、これをどうしていくんだというそういう組織もね、これとはまた別に立ち上げて、本当に県民の利益になるような、各部局を横断する中でアイデアを出していただく。そしてそれを進行していただくということもぜひやっていただきたいと思います。いろいろありますが、とりあえず緊急な形でやらないと、3月これからその辺が高速、それからヴォルティスの体制というのが、その辺が一つの目安ですので2月議会で議論しても遅いものですから、ぜひ皆さん方のお力添えを頂きながら、徳島県が更なる発展をするように、どうぞ御尽力をお願いしておきたいと思います。

もし御答弁いただけるようでしたら、担当部局長、御答弁を頂いたらと思います。

酒池商工労働部長

ただいま委員長のほうから御提案いただきました、県庁の組織についてでございますが、現在におきましてもいろんな形で連携をして、ヴォルティスのJ1昇格に向けたいろんな対策について、協議をさせていただいております。今頂きました御意見につきましては、また早急に関係部局とも連携をしまして、検討をしてまいりたいと考えております。よろしく申し上げます。

藤田委員長

頑張ってください。

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

以上で質疑を終わります。

これをもって、広域交流対策特別委員会を閉会いたします。（12時16分）